

イノベーション研究会
研究計画書・報告書

研究計画書	
研究会の名称	イノベーション研究会
題目	
参加者(座長◎ 副座長○)	小野 裕章・須藤 繁・永里 賢治・山田 一仁・吉原 有里・増田 優
研究開始年月および 研究終了予定年月	2010年 10月から 2012年 3月まで
研究の目的	企業の事業展開におけるイノベーション事例を研究し、企業の国際競争力の強化や付加価値の増大に資するイノベーションのあり方を追求する。
研究計画の内容	<p>多様な産業における企業の事業展開におけるイノベーション事例を対象とし、イノベーションのあり方について技術的視点だけでなく経営的視点も取り入れた議論を行う。また、イノベーションの効果について、企業自身の変革に止まらずより広範な社会の変革までも視野に入れた議論を行う。</p> <p>研究会参加者は原則、「研究会にて事例を提供、またはそれに基づいて論点を整理提供し、この成果を学術総会での発表や学会誌等への論文投稿によって、社会に広く公表する会員」とする。</p> <p>ただし、非会員であっても研究会が認めた者の参加については認めるものとする。</p> <p>2011年度研究計画</p> <p>2011年度は、上記の目的と研究計画を踏襲しつつ、2010年度に得られたポリシー・イノベーションの概念を更に発展させる。</p> <p>また、2010年度の研究対象は石油精製分野や機能性化学分野であったが、2011年度はこれらの分野に加えて、新たな分野でのイノベーション事例についても対象とする。</p> <p>2011年度の具体的な研究計画は以下の通りである。</p> <p>1. 研究会活動</p> <p>1)研究会の開催</p> <p>原則として1ヶ月に1回開催し、参加者が提供する事例について議論を行う。</p>

	<p>2. 研究発表</p> <p>1)研究会活動報告 2011年度の第5回学術総会にて研究会活動報告を行う。</p> <p>2)口頭発表 原則、参加者は研究会での議論を踏まえて学術総会にて口頭発表を行う。</p> <p>3)学会誌への投稿 原則、参加者は研究会での議論や学術総会での口頭発表を踏まえて学会誌への投稿を行う。</p> <p>4)知見の集大成・体系化 2011年度内を目標に研究会活動で得られた知見の集大成・体系化を行う。</p>
受理番号	企画運営委員会 受理 年 月 日
報告書	
<p>2010年度</p> <p>参加者4名により、4件の企業の事業展開におけるイノベーション事例を対象としながら、イノベーションの在り方についての議論を行った。議論では、現場基点の視点からプロセス・イノベーション及びプロダクト・イノベーションを捉えつつポリシー・イノベーションに注目して、この概念の発展を試みた。</p> <p>2010年度の研究会活動及び研究発表の実績は次のとおりである。</p> <p>1. 研究会活動</p> <p>1)研究会の開催</p> <p>2010年度は研究会を3回開催した。</p> <p>第1回 2010年11月17日(木)</p> <p>第2回 2010年12月8日(木)</p> <p>第3回 2011年2月9日(木)</p> <p>2. 研究発表</p> <p>1)口頭発表</p> <p>参加者は研究会発足にむけて事前にイノベーションに関する勉強会を実施した。ここでの議論を踏まえて参加者は、2010年9月30日(木)の学術総会でイノベーション事例に関する計4件の口頭発表を行った。</p> <p>2)討論集会</p> <p>2011年3月8日(火)に開催された春季討論集会では、研究会の有志が上述の概念設定に基づき「ポリシー・イノベーション概念の検証ーリチウムイオン2次電池の事例を含めてー」と題して問題提起を行い、全体討論及び分科会討論を行った。分科会討論結果を整理し、論議</p>	

の輪に提出予定である。

2)学会誌への投稿

参加者は、研究会での討論結果を踏まえて学会誌への投稿を行った。計4報の投稿を行い、内1報が報文として受理されており、学会誌『技術革新と社会変革』第4巻第1号に掲載予定である。

企画運営委員会受理

年 月 日